

昭和十年中

S

8560-1

190

H-0 4 6 2

0288

海軍部
三下

文化事業部
公普通第二十八號
昭和十年二月十四日

東亞局 三友

客年中モ付同様
ノ留學アリ

S.6

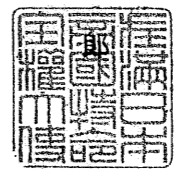
第一課
別紙添付

昭和拾年貳月拾八日受

昭利十年二月十四日

在滿洲國
特命全權大使 南

次



外務大臣 廣田 弘毅 殿

滿洲國海軍士官候補生等本邦留學方ノ件

滿洲國軍政部ニ於テハ同國海軍幹部養成ノ目的ヲ以テ今般士官候補生四名、軍士官十名ヲ選拔シ別紙要項ニ依リ我商船學校其他ニ留學セシメタキ趣ヲ以テ我當局ノ許可取付方外交部ヲ經テ依頼越タルニ付テハ委曲別紙ニ就キ御承悉ノ上可然御手配相煩度
追而本件ハ軍政部ヨリ同部邦人顧問、駐滿海軍部等ヲ通シ同様手

在滿日本帝國大使館

S 8560-1 191

配中ニ付爲念申添ユ

在滿日本帝國大使館

S 8560-1 192

H-0 4 6 2

0289



軍海機密第一號

康徳二年一月二十八日

軍政部大臣

外交部大臣 殿

海軍士官候補者及軍士官兵日本派遣留學ノ件

當國海軍教育制度及施設ノ整備セサル現状ニ於テ海軍將來ノ幹部養成ハ日本帝國ニ依頼スルヲ最モ效果的ト認メ候ニ就テハ左記ニ依リ選拔別紙要領ニ依リ日本帝國ニ留學セシメ度候條可然御配慮ヲ得度

記

士官候補者

兵科 二名

輪機科 二名

以上海軍留日學生採用試験合格者中ヨリ選拔



海軍士官兵

海軍江防艦隊勤務兵科軍士官兵 五名

同 輪機科軍士官兵 五名

寫送付先

駐滿海軍部司令部、關東軍司令部、日本帝國大使館、海軍省、軍令部、文部省、臨時海軍防備隊、國務院總務廳、參議府、江防艦隊司令部、松本江防艦隊顧問



8560-1

194



8560-1

193

H-0 4 6 2

0290

士官候補者日本留學要領

一 留學ノ目的

將來滿洲國海軍ノ骨幹タルヘキ人物ノ養成

二 留學生

兵科 二名

輪機科 二名

海軍留日學生採用試驗合格者中ヨリ詮衡

三 留學期間

自康徳二年(昭和十年)三月年 東京高等商船學校

至同 五年(同十三年)

自康徳五年(同十三年)一ケ年 海軍砲術學校、海軍水雷學校

至同 六年(同十四年) 海軍通信學校、海軍工機學校

四 特修科目

(一) 兵科

兵術(戰略戰術) 一般概念、砲術、水雷術、通信術

以上海軍諸學校

航海術、運用術、機關術、電機術、造船術基礎教育及數學

物理化學、語學

以上高等商船學校

(二) 輪機科

砲術、水雷術、通信術、機關術、電機術、工術

以上海軍諸學校

機關術、電機術、航海術、運用術、造船術基礎教育及數學

物理化學、語學

以上高等商船學校

五 見學

許可ヲ得タル艦船部隊及學校並ニ教練演習

六 活注

校外居住



8560-1

196



8560-1

195

H-0462

0291

七 教育諸費

實費

八 經費豫算

康徳二年度

旅費 實費

手當 毎月各一〇〇圓

見學旅費 年額 實費



8560-1

197

H-0462

0292

軍士官兵日本海軍留學要領

一 留學ノ目的

先進海軍ニ於テ指揮ヲ受ケ下級幹部タルノ實力ヲ修得セシムルニ在
リ
從テ實施ニ於テ鍛練ヲ積ムヲ本旨トシ日本海軍一般ノ見聞ハ本旨ヲ
妨ケサル程度ニ於テ行フモノトス

二 人員

指導官 教練員 一 一
通 譯 一 一

留學生

兵 科 軍 士 官 兵 五 五
輪 機 科 軍 士 官 兵 五

留學生ハ左記該當者ヲ選拔スルモノトス

(一) 志操確實、勤務精勵、歸國後三年以上海軍ニ服務スルコトヲ宣誓
スルモノ

(二) 准士官タルヘキ學力才幹ヲ有スト認ムルモノ

(三) 身體強健ナルモノ

(四) 日本語ノ初步ヲ解スルモノ

三 留學期間

自康徳二年（昭和十年）三月上旬 哈爾濱發
至同 年（昭和十年）八月上旬 歸 國

四 留學地

橫須賀

五 講習科目

(一) 兵 科

砲術及運用術ノ初步

特ニ銃隊、銃劍術、體操

機關銃、小口径砲（高角砲ヲ含ム）火工品、測巨儀操法、射撃術

短艇運用、機動艇操縱法

帆布、索具、塗粧法、手旗信號



8560-1

199



8560-1

198

H-0462

0293

(二) 輪機科

砲術、運用術及機關術ノ初歩

特ニ銃隊、銃劍術、體操、機關操縱法、焚火術、内火式機械操縱法

電機術、工術

短艇運用、手旗信號

六 見學

戰艦、巡洋艦、驅逐艦、航空隊、防備隊、學校

許可ヲ待タル演習教練

七 生活

園内居住、日課ハ日本海軍練習生ニ準ス

但シ生活不馴ノ狀況ニ依リテハ指導官ハ日本側指導官ノ同意ヲ得テ機

宜處置スルコトヲ得

八 教育諸費

各國留學生ニ準シ辨償ス

六 經費豫算 (但シ教育諸費ヲ除ク)

旅費 二四〇〇圓 (實費支辨片道一人百圓)

食料 二一〇圓 (實費支辨 指導官及通譯、士官~~兵~~食料)

手当 一五〇圓 (指導官 月額 五十圓
同附 月額 三十圓
留學生 月額 十五圓)

見學旅費 二四〇圓 (實費支辨一人當リ月額四圓)
接待費

計 五、〇〇〇圓



8560-1

201



8560-1

200

H-0462

0294

寫

昭和十年二月十四日

在滿洲國
特命全權大使 南 次 郎 閣

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

滿洲國海軍士官候補生等本邦留學方ノ件

滿洲國軍政部ニ於テハ同國海軍幹部養成ノ目的ヲ以テ今般士官候補生四名、軍士官十名ヲ選抜シ別紙要項ニ依リ我商船學校其他ニ留學セシメタキ趣ヲ以テ我當局ノ許可取付方外交部ヲ經テ依頼越タルニ付テハ委曲別紙ニ就キ御承悉ノ上可然御手配相煩度

追而本件ハ軍政部ヨリ同部邦人顧問、駐滿海軍部等ヲ通シ同様手配中ニ付爲念申添ニ

外 務 省

9.5 S

8560-1

202

康德二年一月二十八日

軍 政 部 大 臣

外 交 部 大 臣 殿

海軍士官候補者及軍士官兵日本派遣留學ノ件

當國海軍教育制度及施設ノ整備セサル現状ニ於テ海軍將來ノ幹部養成ハ日本帝國ニ依頼スルヲ最モ效果的ト認メ候ニ就テハ左記ニ依リ選抜別紙要領ニ依リ日本帝國ニ留學セシメ度候條可然御配慮ヲ得度

記

士官候補者

兵 科 二 名

外 務 省

9.5 S

8560-1

203

H-0462

0295

輪機科 二名

以上海軍留日學生採用試験合格者中ヨリ選抜

三軍士官兵

海軍江防艦隊勤務 兵 科軍士官兵 五名

同 輪機科軍士官兵 五名

寫送付先

駐滿海軍部司令部、關東軍司令部、日本帝國大使館

海軍省、軍令部、文部省、臨時海軍防備隊

國務院總務廳、參議府、江防艦隊司令部、松本江防艦隊顧問

外務省



8560-1

204

士官候補者日本留學要項

一、留學ノ目的

將來滿洲國海軍ノ骨幹タルヘキ人物ノ養成

二、留學生

兵 科 二名

輪機科 二名

海軍留日學生採用試験合格者中ヨリ詮衡

三、留學期間

自康徳二年（昭和十年） 三ヶ年 東京高等商船學校

至同 五年（同十三年）

自康徳五年（同十三年） 一ヶ年 海軍砲術學校、海軍水雷學校
至同 六年（同十四年） 海軍通信學校、海軍工機學校

外務省



8560-1

205

H-0462

0296

四、特修科目

(一) 兵科

兵術（戰略戰術）一般概念、砲術、水雷術、通信術

以上海軍諸學校

航海術、運用術、機關術、電機術、造船術基礎教育及數學、

物理化學、語學

以上高等商船學校

(二) 輪機科

砲術、水雷術、通信術、機關術、電機術、工術

以上海軍諸學校

機關術、電機術、航海術、運用術、造船術基礎教育及數學、

は(イ)

9.12

S

8560-1

206

外務省

物理化學、語學

以上高等商船學校

五、見學

許可ヲ得タル艦船部隊及學校並ニ教練演習

六、居住

校外居住

七、教育諸費

實費

八、經費豫算

康德二年度

旅費 實費

は(イ)

9.12

S

8560-1

207

外務省

H-0462

0297

手 當 毎月各一〇〇圓
見學旅費 年額 實費

外 務 省

S 8560-1 208

軍士官兵日本海軍留學要領

一、留學ノ目的

先進海軍ニ於テ指導ヲ受ケ下級幹部タルノ實力ヲ修得セシムルニ在リ

從テ實施ニ於テ鍛練ヲ積ムヲ本旨トシ日本海軍一般ノ見聞ハ本旨ヲ妨ケサル程度ニ於テ行フモノトス

二、人 員

指導官	教練員	一
同 附	通 譯	一
留學生	兵科 軍士官兵	五
	輪機科 軍士官兵	五

外 務 省

S 8560-1 209

H-0 4 6 2

0298

留學生ハ左記該當者ヲ選拔スルモノトス

(一) 志操確實、勤務精勵、歸國後三年以上海軍ニ服務スルコトヲ宣誓スルモノ

(二) 准士官タルヘキ學力才幹ヲ有スト認ムルモノ

(三) 身體強健ナルモノ

(四) 日本語ノ初歩ヲ解スルモノ

三、留學期間
自康德二年(昭和十年)三月上旬 哈爾濱發
至同 年(昭和十年)八月上旬 歸 國

四、留學地
橫 須 賀

外 務 省

8560-1 210

五、講習科目

(一) 兵 科
砲術及運用術ノ初歩
特ニ銃隊、銃劍術、體操
機關銃、小口徑砲(高角砲ヲ含ム)火工品、測巨儀操法、射擊術、短艇運用、機動艇操縦法
帆布、索具、塗粧法、手旗信號

(二) 輪機科
砲術、運用術及機關術ノ初歩
特ニ銃隊、銃劍術、體操、機關操縦法、焚火術、内火式機械操縦法、電機術、工術

外 務 省

8560-1 211

H-0462

0299

短艇運用、手旗信號

六見學

戰艦、巡洋艦、驅逐艦、航空隊、防備隊、學校
許可ヲ得タル演習教練

七生活

團内居住、日課ハ日本海軍練習生ニ準ス
但シ生活不馴ノ狀況ニ依リテハ指導官ハ日本側指導官ノ同意ヲ得テ
機宜處置スルコトヲ得

八教育諸費

各國留學生ニ準シ辨償ス

九經費豫算（但シ教育諸費ヲ除ク）

外務省



8560-1

212

旅費 二四〇〇圓（實費支辨片道一人百圓）

食料 一、二一〇圓（實費支辨指導官及通譯、士官並食料）

手當 一、一五〇圓（同）
指導官 月額 五十圓
附 月額 三十圓
留學生 月額 十五圓

見學旅費 二四〇圓（實費支辨一人當り月額四圓）

計 五〇〇〇圓

は(イ)

外務省



8560-1

213

H-0462

0300

通 通 通

東亞局

第三課

56

外務省
公 信 案

三月十日附官房第九八〇号ノ二並ニ
文部次官若重光外務次官宛三月十日

別紙トシテ海軍次官若外務次官宛
取計相成交

夕ニ付委細有テ了テ上可也

置テモ電別紙寫ノ通ニ回答有之

何ヲ海軍省並ニ文部省宛及照會

S

8560-1

215

文書課長

文書課發送 檢送日五廿日
昭和拾年三月廿五日發送済

主 任 第一課長

普通密 第一六四號

昭和拾年三月廿五日

日附 附屬

正校(原稿) 淨書

名 件 名 人 信 受

南大使

駐南

廣田外務大臣

満洲国海軍士官候補生等在本邦留学
本件ニ関シ二月十四日附公普通密
二八号貴信ヲ以テ申付テ了テ承

名 件 録 記 名 人 信 發

S

8560-1

214

66

H-0462

0301

公
信
案

外
務
省

通
信
附
録
五
二
号
及
其
添
附
書
ノ
寫
本

S

8560-1

216

H-0 4 6 2

0302

濟南在



二月二十日
考送致文
特使

東亞局

第三課

5.6 (5)

文書課長

文書課發送

昭和拾年貳月廿八日發送濟

淨書

正校(原稿)

昭和十年二月二十日起草

主 文化事業部長

任 第一課長

文化一般通 第八五四號

昭和 昭和拾年貳月廿八日附 附屬

受 信 長谷川海軍次官
名 人 三辺 文部次官

宛各通

重光外務次官

件 滿洲國海軍士官候補生等本邦留學方件

本件ニ關シ今般 公普通第二十八號ヲ以テ

在滿洲國南特命全權大使ヨリ別紙寫ノ通

公 信 案

外 務 省

別紙

公 信 案

外 務 省

申越有之タルニ付テハ委細右寫ニ就キ
御了承ノ上可然御取計相成度ノ此
ノ段照會申進ス

追テ先方ニ回答ノ都合有之何分儀御回示相成度

(別紙南大使來信字 滯附 附屬書類軍

海機密第一號字 其係 井添附ノ口)

S

8560-1

218

S

8560-1

217

28 41

H-0462

0303

通

省 部 文

教第二四號ノ二

昭和十年三月六日

東京高等商船學校長 島 谷 敏 郎

文部省専門學務局長 赤 間 信 義 殿

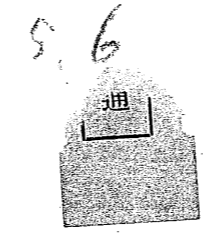
滿洲國海軍士官候補生等本邦留學ノ件

首題ノ件ニ關シ本月四日付官專五二號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ昨年三月制定ノ滿洲國委託生規程ニ依リ取扱フコトニ可致候間御了承相成度此段及回答候也



8560-1

220



通

省 部 文

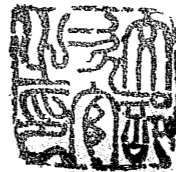
10.3.28
文部省
事業部

文化事業部
官專五二號

第一課

昭和十年三月二十日

文部次官 三 邊 長 治



外務次官 重 光 葵 殿

滿洲國海軍士官候補生等本邦留學ノ件

本年二月二十八日付文化一普通合第八五四號照會標記ノ件別紙寫ノ通東京高等商船學校ヨリ回答有之タルニ付委曲右ニテ御了知相成度

昭和拾年參月廿七日接受
別紙添附



8560-1

219

H-0462

0304

5.6

通

10.3.12

文化事務課

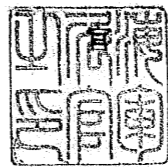
官房第九八〇號ノ二

昭和十年三月十一日

第一課

海軍次

外務次官殿



滿洲國海軍士官候補生等本邦留學ニ關スル件回答

文化一普通合第八五四號ヲ以テ御照會ノ首題ノ件當省ニ關スル限り受諾
差支無之候但シ士官候補者ヲ入學セシムベキ海軍學校及其ノ特修科目等
ノ細部ニ關シテハ追テ協議スルコトト致度

追テ東京高等商船學校入學ニ關シテハ主務省ニ照會相成様致度

(終)

海軍

(9. 10. 3)

S

8560-1

221

H-0462

0305

10.12.9-1
陸軍部

東亞局

第三課

救済

5.6

文

公普通第二二二三號

昭和十年十一月二十八日

在滿洲國

特命全權大使 南

次

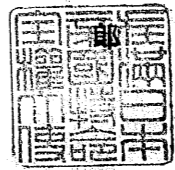
外務大臣 廣田 弘毅 殿

滿洲國海軍士官候補者及軍士官兵日本留學方ノ件

滿洲國軍政部ニ於テハ現在同國海軍教育制度及施設ノ不備ナル狀況ニ於テ首題同國海軍幹部ノ養成ハ我帝國ニ依頼スルヲ最モ適當ト認メ今般左記人員ヲ別紙要領ニ依リ本邦ニ留學セシメ度希望ヲ以テ帝國關係當局ノ承諾並斡旋方依頼越セルニ付テハ委細右ニ依リ御了承ノ上可然斡旋相煩度此段稟報旁御依頼申進ス

在滿日本帝國大使館

昭和拾年三月四日 接受
附屬書添附



S

8560-1

222

記

一 士官候補者 兵科 四名

軍需科 二名

二 軍士官兵 兵科 十名

(計) 十六名

追テ右ハ目下詮衡中ニテ明年一月頃決定ノ趣ナルヲ以テ右決定次第氏名追報スヘキニ付右御含相成度此段申添フ

在滿日本帝國大使館

S

8560-1

223

H-0462

0306

海軍士官候補者日本留學實施要領

一、留學ノ目的

將來海軍ノ骨幹タルヘキ士官ノ養成

二、留學生

兵科 四名

軍需科 二名

三、留學期間及學校

兵科

自康德三年（昭和十一年）

至同 六年（同 十四年）

三ケ年 東京高等商船學校

自同 六年（昭和十四年）

至同 七年（同 十五年）

一ケ年 日本海軍砲術學校
同水雷學校
同通信學校

軍需科

自康德三年（昭和十一年）

外交部

S 8560-1 224

至同 四年（同 十二年） 一ケ年 日本海軍經理學校

四、修理科目

兵科

航海術、運用術、機關術、造船術及數學

以上高等商船學校

兵術一般概念、砲術、水雷術、通信術

以上海軍諸學校

軍需科

(一) 軍經理

(1) 金錢經理

(2) 物品經理（兵備品及通常物品）

(3) 厨業管理

(二) 部署及海軍諸法規、庶務

五、見學

艦船部隊及學校並演習教練

外交部

S 8560-1 225

H-0462

0307

六居 住

兵 科 校外居住

軍需科 海軍經理學校長ノ定ムルトコロニ依ル

七、經 理

(一) 手 當

留學期間中月額百圓ヲ支給ス

(二) 入校旅費

新京採用者ニハ軍政部旅費規則第十一表ノ所定額ノ外同第十二表ノ支度科及着後手當ヲ支給シ東京採用者ニハ第十二表ノ支度料及着後手當ノミヲ支給ス

(三) 修學中ニ要セシ教育諸費ハ實費精算ノ上日本海軍及高等商船學校ニ辨償ス

外 交 部

8560-1

226

軍士官兵日本留學實施要領

一、留學ノ目的、本旨

先進日本海軍ニ於テ指導ヲ受ケ以テ下級幹部タルノ實力ヲ修得セシムルニ在リ

從テ實施ハ鍛鍊ヲ積ムヲ本旨トシ日本海軍一般ノ見聞ハ本旨ヲ妨ケサル程度ニ於テ行フモノトス

二、留學生

兵科軍士官兵 一〇名

留學生ノ選抜ハ左記ニ依ルモノトス

(一) 志操堅實、勤務精勵ニシテ將來長ク海軍ニ服務スルコトヲ宣誓スルモノ

(二) 准士官タルヘキ學力才幹ヲ有スト認ムルモノ

(三) 身體強健ナルモノ

(四) 日本語ノ初步ヲ解スルモノ

三、留學期間

外 交 部

8560-1

227

H-0462

0308

自康徳三年（昭和十一年）三月
至同年 八月

四 留學地
横須賀海兵團

五 講習科目
（一）砲術及運用術ノ初歩
特ニ銃隊教練。機銃、小口径砲、高角砲ノ操法、取扱、射撃。
火工品ノ初歩取扱。測距儀操法。
帆布、索具、塗粧、短艇運用、機動艇操縦。
（二）手旗信號、銃劍術、體操

六 見 學
（一）戰艦、巡洋艦、驅逐艦、航空隊、防備隊、學校
（二）教練、演習

七 生 活
（一）居住 團内居住

外 交 部

S 8560-1 228

（二）日課 横須賀海兵團長ノ定ムルトコロニ依ル

八 連絡員及指導官附
（一）留學生ノ横須賀海兵團入團及退團時之カ引卒並事務打合せノタ
メ連絡員トシテ教練職員一名ヲ出張セシム
（二）留學生留學期間指導官附トシテ江防艦隊通譯一名ヲ派遣ス

九 經 理
（一）留學期間中ハ左記ニヨリ留學手當ヲ支給ス
留學生 月額 九圓
指導官附 月額 二〇圓
（二）留學期間中ハ左記ニヨリ食料ヲ支給ス
留學生 日本海軍兵食實費
指導官附 日本海軍准士官室額
（三）支度料及着後手當ノ支給ハ左記ニヨル
留學生 被服費ヲ以テ被服ヲ整備シ支度料ハ支給セス着後
手當ヲ支給ス

外 交 部

S 8560-1 229

H-0462

0309

指導官附 支度料及着後手當ヲ支給ス
 (四) 往返ノ旅費ハ留學生、連絡員及指導官附共軍政部旅費規則ニ依
 ル
 (五) 留學期間中ニ要セシ教育諸費、見學旅費及留學生ノ食料實費ハ
 留學終了後精算ノ上日本海軍ニ辨償ス
 十、報告(各三通)
 (一) 實施方案 出發一ヶ月前
 (二) 現狀報告 入團中適宜
 (三) 實施經過成績所見 歸國後一ヶ月以内

(終)

外 交 部



8560-1

230

H-0462

0310

齊

陸海軍

發信用執務用		
主信	/	/
附甲	/	/
附乙	/	/
附丙	/	/
附丁	/	/
備考	5	6

陸海軍

省及文部省及照會置タル処今般別紙字
一通田答有之タル付妻細右ニテ御了取
上滿洲國側へ傳達方御取計相煩及
別紙下ニテ昭和十年十月二十日附海軍次官發外務次官
次官房才五七七号ニ公信字壹通及昭和十年
一月二十七日附文部次官發外務次官專

公 信 案

外 務 省

S

8560-1

232

件名 滿洲國海軍士官候補者及軍士官兵回本留學方ニ付
受信人 在滿洲國 特命全權大使 南次郎
發行人 廣田 大 臣
主 文化事業部長 任第一課長 林
文化二普通 第八〇號 昭和拾壹年壹月卅壹日 日附 附屬
文書課發給昭和拾壹年貳月參日 發送濟 淨書
正校(原稿) (淨書)
昭和十一年一月二十九日起草

本件之關ニ昭和十年十月二十日附公普通第二二二
三号貴信ヲ以テ御申越ノ趣了承仍テ海軍

公 信 案

外 務 省

S

8560-1

231

文書課長

別紙

15

H-0462

0311

發信用執務用		
信	/	/
附甲	/	/
乙		
丙		
屬丁		
備考	5.6	

文化第二課長 濟

別紙トシテ三月三十日附官房第一五九号海軍次官發
外務次官宛公信寫壹通作成并儘添附コト

進ス

ヨリ別紙寫通申越アリタルニ付委細右ニテ
御了知上可然御取計相成度此段申
進ス

公 信 案

外 務 省

S 8560-1

235

文書課長 文書課發送 昭和拾壹年四月拾壹日發送濟 淨書 (孝) 正校(原稿) (孝) (淨書) 昭和十一年四月八日起草

主任 文化第一課長 林

文化一普通部 第八號 昭和拾壹年四月拾日 日附 附屬

受 在滿洲國 植田大使

名 人 信 發 有田大臣

名 件 錄 記

本件ニ関シ早襄二月三十日附文化一普通部第八号ヲ以テ申進ノ次第アリタル處今般海軍省

満洲國海軍士官候補者及軍士官兵早留學方ニ関ス件

公 信 案

外 務 省

S 8560-1

234

H-0462

0313

文化事業部

第一課

Handwritten signature

昭和七年三月廿日

接受

11.3.30

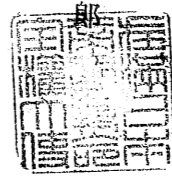
(公普通第四二二號)

昭和十一年三月二十四日

在滿洲國

特命全權大使 南

次



外務大臣 廣田 弘毅 殿

滿洲國派遣海軍士官候補者及軍士官兵ノ
日本留學方ノ件

本件ニ關シテハ客年十一月二十八日附公普通第二、二二三號拙信ヲ
以テ稟報ノ次第有之處(今般同國側ヨリ右留學事項中ノ士官候補者軍
需科二名及之ニ關スル事項ヲ削除スルト同時ニ又軍士官兵留學期間
ヲ六月ヨリ十一月迄ニ變更スルコトトナリタル旨通牒有之タルニ付

在滿日本帝國大使館

S 8560-1 236

右様御了承ノ上關係ノ向ヘ右傳達方可然御取計相成度此段申進ス

在滿日本帝國大使館

S 8560-1 237

H-0462

0314

濟
左滿

東亞局
第三課

發信用執務用	
主信	2 3
附甲	2 2
附乙	
附丙	
附丁	
備考	56



文書課長

文書課發達

昭和拾年三月拾四日發送濟

淨書

正校(原稿)

主管 文化事業部長

主任 第一課長

文化一普通合第

四七八八號

昭和

昭和拾年三月拾四日

附屬

昭和十年十二月十一日起草

受信人
長谷川海軍次官
三辺文部次官
通

名件録記 名人信發

重光外務次官

滿洲國海軍士官候補者及軍士官兵日本留學方件

本件ニ関シ今般在滿洲國南特命全權大使ヨリ別紙

寫ノ通申越有之タルニ付委細右ニテ了知ノ上可然

公信案

外務省



8560-1

13 9
238

少取計相成結果何合儀少回報相成度此致照
會申進ス

別紙トシテ十一月廿八日附公普通第三三三三号南大使發上届大臣宛來信

寫ニ部作成各一抄添附並同信添附屬物各一抄其添附

公信案

外務省



8560-1

239

H-0462

0315

文化
10.12.28
事業部

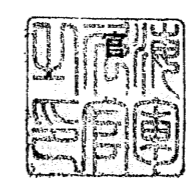
文化事業部

官房第五四七七號ノ二

昭和十年十二月二十七日

海軍次

外務次官殿



滿洲國海軍士官候補者及軍士官兵日本留學方ノ件回答

文化一普通合第四七八八號ヲ以テ御照會ノ首題ノ件當省ニ關スル限リ受
諾差支無之候但シ兵科及輪機科士官候補者ガ東京高等商船學校ヲ卒業シ
テ海軍諸學校ニ入校スル場合竝ニ軍需科士官候補者ガ海軍經理學校ニ入
校スル場合ニハ海軍諸學校ニ於ケル待遇及取扱上士官候補者タル身分及

海軍

(10-5-1) S 8560-1 240

ニア
持永

第一課

昭和拾年十二月廿八日接受
(双文館納)

服装ヲ明確ナラシムル必要有之候條其ノ旨滿洲國軍政部ニ申入方取計相
成度

追テ一兵科士官候補者ニ關スル細目ハ當省ニ關スル限リ前年ノ例ニ依
ルコトト御承知相成度

二右候補者ノ東京高等商船學校入學等ニ關シテハ主務省ニ照會相
成様致度

三軍需科士官候補者ニ關スル細目ハ當省及在東京滿洲國大使館間
竝ニ駐滿海軍部及滿洲國軍政部間ニ直接協議スルコトト致度

四軍士官兵ニ關スル細目ハ前年ノ例ニ依ルコトト御承知相成度

(終)

(10-5-1) S 8560-1 241

(双文館納)

海軍

H-0462

0315

文化
11.1.29
事業部

文化事業部
官專四〇七號

第一課



昭和十二年一月廿九日接受

別紙添附

省 部 文

昭和十一年一月二十八日

文部次官 三 邊 長 治

外務次官 重 光 葵 殿

滿洲國海軍士官候補者等日本留學方ノ件

標記ノ件ニ關シ客年十二月十三日付文化一普通合第四七八八號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ東京高等商船學校ヨリ別紙寫ノ通回答有之タルニ付御了知相成度

56



8560-1

242

省 部 文

庶第四號ノ二

昭和十一年一月八日

東京高等商船學校長 島 谷 敏 郎

文部省専門學務局長 赤 間 信 義 殿

滿洲國海軍士官候補者等日本留學方ノ件

標記ノ件ニ關シ本月六日付官專四〇七號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ昨年ノ例ニ依リ取扱フコトニ可致候間御了承相成度此段及回答候也

寫



8560-1

242-1

H-0462

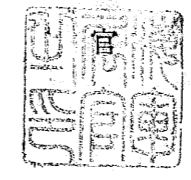
0317

文化
11.4.1
事務

官房第一五〇九號

昭和十一年三月三十一日

海軍次



東連局
三課

外務次官殿

滿洲國海軍軍需學生教育受託本年度取止ノ件通知

客年十二月十三日(文化一普通合第四七八八號)照會ニ對シ(同二十七日官房第五四七七號)ノ二ヲ以テ(回答)ニ處右ノ中軍需科志願者ニ對シ過般海軍經理學校ニ於テ採用試験施行ノ結果ハ其ノ成績充分ナラザルヲ以テ本年度ノ採用ハ取止メノコトト相成候右ニ就テハ何レ滿洲國軍政部ヨリ正式申

要事
516

海軍

S 8560-1 243

第一課



昭和十一年四月三日 接受

(本田)

越アルコトトハ存候得共取敢ヘズ及通知候

追テ明年度重ネテ採用ノ意嚮アラバ成ルベク早日ニ少クモ本年夏期ノ頃ヨリ募集公告等ノ要アリト認ムルニ付此ノ旨先方へ御通達置相煩度

(終)

(本田)

海軍

S 8560-1 244

H-0462

0318

在滿

發信用 執務用	
主信	2
附甲	2
附乙	
附丙	
附丁	
備考	5.6

表

公 信 案

別紙寫、通變更、旨通牒有之タルニ付安
細右ニテ御了知、上可然御取計相成度
此段申進ス

別紙トシテ、三月二十四日附公普通第四ニ号、南大使發
廣田大臣宛來信寫ニ部作成各一部添附ノコト

外 務 省

S 8560-1 246

文書課長

文書課發送 昭和拾壹年四月貳日 發送済

主任 文書第一課長 井

昭和一十一年三月三十一日起草

淨書 (原稿) (淨書)

文化一普通合第一一七一號 昭和一十一年四月貳日 日附 附屬

受 信 長谷川海軍次官 各

人 三 迎 文 部 次 官 通

名 件 錄 記 名 人 信 發 重光外務次官

件 名 滿洲國海軍士官候補者及軍士官兵白本留學方件

本件、^信文化一普通合第四七八号ヲ以テ御照會
申置タル処、今般在滿洲國南特命全權大使ヨリ

外 務 省

S 8560-1 245

H-0462

0319

文化
12.4.5
審判部

第二課長
香

通

12.4.16
津

文化審判部

公普通第五一九號

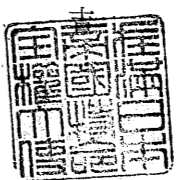
昭和十二年三月二十九日

在滿洲國

特命全權大使

植田

謙



昭和十二年四月五日

接

外務大臣 佐藤 尚武 殿

滿洲國軍政部派遣海軍士官候補生二名ノ
海軍經理學校入學方ノ件

滿洲國軍政部ニ於テハ今般同部海軍士官候補生左記二名ヲ本邦海
軍經理學校ニ派遣留學セシムルコトト相成タル趣ヲ以テ右留學幹
旋方外交部ヨリ申越ノ次第有之タルニ付テハ右ノ趣關係當局ニ轉
達ノ上何分ノ儀折返シ御回示相煩度此段申進ス

在滿日本帝國大使館

8560-1 247



記

滿洲國軍政部海軍士官候補生

張 凌 哲
祝 迺 榮

在滿日本帝國大使館

8560-1 248



H-0462

0320

留學セシルフト相成タル趣ヲ以テ今般在滿洲國
 植田大使ヨリ別紙寫ノ通申越ノ次第有之タル
 ニ付委細右ニテ御了^知上可然御取計何分
 ノ儀御回報相成度此段申進ス

別紙トシテ
 昭和十二年三月廿九日附在滿洲國植田大使發給佐藤大佐宛
 公普通第卅九號公信壹部作成ノ上添付ノコト

公 信 案
 外 務 省

S 8560-1 250

發信用執務用				
信	/			
附甲	/			
乙				
丙				
丁				
備考	5	6		

收 12.4.10 済

東 亞 局
 第 三 課
 第二課長

文書課長	文書課發送昭和拾貳年四月拾參日發送済	主 任 第一課長 林	淨書	昭和十二年 八月起草
主 任	文化一普通 第一 二 號	主 任 第一課長 林	正校(原稿)	
受 信 人	山本海軍次官	發 信 人	堀内外務次官	
名 件	滿洲國軍政部派遣海軍士官候補生三名、海軍經理學校入學名件	記 録 名		
公 信 案	滿洲國軍政部ニ於テハ同部海軍士官候補生張凌哲及祝迺榮ノ兩名ヲ海軍經理學校ニ派遣	外 務 省		

S 8560-1 249 12 114

H-0462

0321